



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2026/02/08

創造者の祝福

一歩先に待つ宿命に打ち勝て！

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏

^o.^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*^o.*

お元気ですか。高原剛一郎です。この動画が届くころ、私はイスラエルにおります。帰国次第、現地で見聞いた一番新しい様々なことをシェアしたいと思っておりますが、今日は、いつもとは趣向の異なるメッセージをお届けしますね。

ちょっと話は変わりますが、こんなことないですか？
ある人のことを話題にして話してたら、そのタイミングでその人からメールが入る。友人と「昔、あんな本あったよね。でも、絶版で手に入らないよね。また手に入ったらいいんだけど」と言って、ふらっと入った本屋さんにそれが置いてある。行くことが難しい世界のあの場所に行きたいと思ってて、久しぶりに友人と会ったら、「そこ行けへん？」と誘われたり。私、それめっちゃ多いんです。偶然なのか、関心を持ってるので自分のレーダーが敏感になっていて、見落としていたものに目を留めることができそうだったのか、よく分かりませんが、ほんとに多いです。

この日曜日、私は福音集会で聖書メッセージをしました。その中で、自分の幼少時代のことを少し話したんです。僕はDV家庭で育ったんで、ほんとにあまりいい少年時代じゃなかったんですが、そんな中で支えられてきた秘訣について話しをしたんですね。

その日の夜、メールが2通入って来たんですよ。悲惨な幼少期を過ごしている方々から。全く同じリクエスト。

「高原さんは私と同じように悲惨な幼少期を過ごしたのに、全然ひねくれずに明るく生きている。どうしたら、そのように生きられるんですか？秘訣みたいなものがあれば教えてください」

まず誤解がありまして。私、メチャクチャひねくれてます。ひねくれてないように見える時があるかもしれませんが、基本ひねくれてます。幼少期に受けた様々なことが、自分の人格に影を残しているな。そう思うことが未だにあるんですが、何というか、その否定的な考えをしてしまう自分を、今はハグできるようになってるんですよ。その否定的な考えさえ、自分自身の生存戦略として、あながち間違ってたんじゃないか。否定的な考えを飼い慣らしていくためにどうしたらいいのか、という術を聖書で学んだんです。あの経験がなかったら今の私ではなくなるから、却って怖いんですよ。

もう一通は手紙。これは探し物をしている時に出てきて、1週間くらい前に来てたんですが同じ内容です。

「こういう少年時代を過ごして、今いじめられている私は、大人になっても口クな人間にならないと思います。高原さんはどうやって、その山を乗り越えて行ったんですか？」

メールなら返信できるけど、手紙に住所書いてない。返信できないんですよ。なので YouTube を借りて、この場でお話ししようと思いました。

自分が置かれているその場所が、心身を蝕んで自分を滅ぼすような環境の場合、私はそこから出る方がいいと思います。例えばブラック企業。未だにありますよ。

「ほんまにそんなことあるんかいな」というような大人のいじめ、ありますよね。あるいは DV 家庭で、毎日毎日生きるか死ぬかみたいなこと、あるじゃないですか。そんなところにずっと留まって、お祈りして、なんとかかかんとかって。

「ちょっと待ってください。それ、出た方がいいんじゃないですか？」ということを書いたんです。

メールで返事が来て、この方はカトリックのシスター渡辺和子さんが書いた本、『置かれたところで咲きなさい』を大切にしてるんですね。

「この悲惨な家庭も神が下さったものだから、私はここにいなければならない！」
「ここに嫁いだ以上、死にかかろうがなんだろうが、歯を食いしばって、とにかくここにいなければならない！」

言いながら、もう人格崩れて行ってるんですよ。これ危ないです。

それで私が申し上げたのは、聖書には、危険な目に遭った時、逃げた人がいっぱい出てくるんです。

クリスチャンの模範の模範、自分で「皆さん、私を見倣ってください」と言った人がいるんですよ。使徒パウロです。

パウロはダマスコに行った時、彼に反発しているユダヤ人たちの攻撃、暗殺計画があつて狙われました。その時、籠に入って窓から吊り降ろしてもらってね。

第二コリント 11 章

32-33 ダマスコでアレタ王の代官が、私を捕らえようとしてダマスコの人たちの町を見張りましたが、私は窓からかごで城壁伝いにつり降ろされ、彼の手を逃れたのでした。

逃げたんです。しかも、窓からかごで城壁伝いにつり降ろされ、逃れた。

相当情けない逃げ方じゃないですか。でも、彼は堂々と逃げてるんです。

情けないとは思ってない。パウロは、殉教が何が何でも良いこととは考えてません。

最終的に殉教しましたよ。だけど、殉教を望んで殉教したんじゃない。

殉教しに行ったんじゃない。もう逃れようがなかった時、「神は今、これを受け入れるように召しておられるのだ」と確信したからそうだったのであって、生きる限

りはできるだけ多くの人々に神の福音を宣べ伝えることを、何よりも大切にしましたんです。自分に対する神の計画の前進のためには、ここにいたら、それが潰されてしまうということが分かった時、逃げてるんですよ。

イエスも突き落としの崖で人々に囲まれた時、まだ自分が死ぬ時ではないと、すーっと通り抜けて去って行かれたと書いてあります。

置かれたところで咲くのは大切なことですが、文脈というのがあってね。そこにいて身身の危険まで感じるような、人格崩壊まで行くような場合、「それでも、そこにおれ」という意味ではありません。絶対にないです。

僕が大好きな魚類学者のさかなクン、白フグの帽子かぶってる人。彼は面白い。彼は中学でブラスバンド部に入っていました。魚むちゃくちゃ好きなのに、なぜブラスバンドでサクソフォン吹いてたのか。中学校に入った時、先生が「すいそうがく部募集してるから、入ってください」吹奏を、魚を飼う水槽と勘違いして入ったんですって。で、辞めると言う勇気がなかったんで、そのままサクソフォン吹き続けて。でも、上手なんですよ。

ところが、吹奏楽部で1人の友人が、ある日を境にして突然仲間外れにされて、全くだれにも口をきいてもらえなくなったのを見た。そして、威張っていた先輩が3年になって、彼を狙い打ちにして完全無視し始めた。前兆なしに、ある日突然、いじめが始まった。その時、いじめられている友人をよく釣りに誘って、糸を垂らしているだけでほっとしている彼の姿を見て、自分まで幸せな気持ちになったと言っていました。

いじめについて話す時、さかなクンは経験談を語ったんですね。彼は水槽でメジナを飼ってました。メジナの群れが泳いでるんですが、なんと、弱いメジナを集団でいじめだしたんですよ。「えっ、いじめって、人間だけとちゃうんか！」メジナが突っついて突っついて。そのうち、いじめられているメジナが傷だらけになって、そのままと死んでしまう。そのメジナを網ですくい上げて、ほかの水槽に移して守ってあげました。何が起こったでしょう。新たにいじめられるメジナが出て、みんなでブワーってまたいじめるんですよ。そのメジナも外に出したら、また別のメジナがターゲットになって、いじめられまくってる。

こういうことは、自然界の海の中では起こらないそうです。広ーい世界の中では起こらない。逃げ場がない閉鎖空間・密閉空間のところで、それがしばしば起こると言うんです。

いじめは家庭でも、体育会系のクラブでも、つまり脱退するのが限りなく難しく、そのクラブ辞めたら学校も辞めなあかんような、逃げようにも逃げられない密閉空間で起こることが多いけど、海の世界ではそんなことがない。

さかなクンが言っていたのは、「そんな密閉空間の中で、1回しかない人生を滅ぼされてしまうなんて、もったいなさすぎる。外の世界には、楽しいことがいっぱいある」私もそれを言いたいんですよ。

私は家の中に、ほんとに居場所がなかったですね。新しい父が私を目の敵にして、よく暴力振るわれたし。そういうこと言うつもりなかったけど、福音集会で語ってしまったんですけどね。

私の場合は家の外に居場所があったんです。クラブだったり、日曜学校だったり、極真空手の同好会だったり、別のところによく出かけて行きました。

別のところに行くと、必ず2種類の人が出てくるんですよ。

私を気に入らなくて目の敵にする人。

その人よりも強い立場の、言うならそのグループのリーダーみたいな人。

どこに行っても、そんな人からほんまに可愛がられました。

どこでも私にむかつく人はおるけど、応援してくれる人もおるんやと。

応援してくれる人は、私にとって砦というか、安全圏・安全地帯というか。

最終的に、今所属している教会の中に、本当に安全地帯を見出したんです。

人間は周りの人から受ける影響がものすごくあってね。

正しく写したか覚えてないんですけど、こういう詩があります。

「5人の努力家と一緒にいたら、あなたは6人目の努力家になる。自信に満ちた5人に囲まれていたら、あなたは6人目の自信に満ちた人になる。健康的な5人と一緒にいたら、あなたは6人目の健康的な人になる。ダラダラ過ごす5人と一緒にいたら、あなたは6人目のダラダラ過ごす人になる。愚痴ばかり言う5人と一緒にいたら、あなたは6人目の愚痴ばかり言う人になる。お金が無いと言って挑戦しない5人と一緒にいたら、あなたは挑戦しない6人目になる」

人から受ける影響というか、環境から受ける影響は非常に大きいです。

聖書に「友だちが悪ければ、良い習慣は損なわれる」と書いてあるんですね。

自分が今いるところがロクなもんじゃないという場合、外に出るのは逃げではなく、良い環境を選び直すということなんですよ。それを強くお勧めしたいと思います。神様は、あなたのために脱出口になってくれるような人を、すでにちゃんと用意してるんです。どうやったら、その人に会えるのか。

まず祈ってください。「神様、私を安全圏に導くきっかけとなる人物を、どうぞ教えてください。与えてください」こう祈って、出掛けてみることでですね。

一番いいのは、教会の門を叩いてみることだと思います。

でもね、例外もあるんです。教会いうてもピンキリですわ。牧師いうても、救われてない牧師おるから。聖書をちゃんと信じてない牧師いますからね。

そういうのはちょっと困るんですけど、祈りながらね。

